

## 講話「花の魅力とまちづくり」

### ■花のまち恵庭

- ・恵庭の道の駅は札幌を出て最初にある道の駅である立地から、いつも多くの人でにぎわっています。農産物・花の直売所である「かのな」の売り上げは年間、一億円に上ります。
- ・恵庭ではオープンガーデンが盛んであり、庭もおもてなしの心も素晴らしいです。
- ・花の植え込みも、庭づくりも、まちの景色をつくっていることと言えます。誰に見てもらうために、どういう景色を作るかが重要です。



- ・「景色をつくる」という行為の最も身近なものが庭づくりです。
- ・道の駅の「いこいの花畑」は、まちの入り口にある800坪の原っぱを市民の手でお花畑にした取組みが始まりです。地域の人が好きになようにつくり、世話をする、大変恵庭らしい場所になりました。
- ・子ども達に「恵庭は何のまちか」と訊くと「花のまち」と答えます。次の世代に「花のまち恵庭」のイメージが受け継がれ始めています。
- ・恵庭で起こる様々な事業が花に結びついており、「花のまち恵庭」としてのイメージを作っています。

### ■洞爺湖町 おもてなしの花かざり

- ・洞爺湖町での「おもてなしの花かざり」は3年間継続しており、住民に「花のまちづくりは楽しい」と伝えています。
- ・洞爺湖町は観光のまちでもあるため、赤や黄色等の明るい色の花をかざることで、まちの元気を演出しています。
- ・地道な作業が美しい花の風景をつくれます。
- ・自分たちの手でまちを飾るという気持ちが大切です。

## ■花の風景に思うこと

- ・花は想いを伝えるツールです。
- ・花は生き物なので、手が加わっているものは人に気持ちが伝わります。うまく育てているもの、つまり質が良いものに人は感動します。
- ・花の植え方は、まちの歴史や人を知って変わっていくものです。
- ・まちの花づくりは、色々な人と協力しながら広がっていくものです。



- ・風景を作っていく意識を持つと、植える植物の選択が変わっていきます。
- ・今日実習で行ったハンギングづくりも風景づくりといえます。ハンギングづくりから始めて、庭づくり、そしてまちに花や緑を飾るといった風景づくりのステップを踏んではどうでしょうか。
- ・十勝千年の森や、修学院離宮、京都詩仙堂、畑の整然とした風景等、自分の好きな風景を描いていくことが大切です。
- ・まちの風景と花や木は切り離せない、花や木をとおして、まちの風景を作っていきましょう。